

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S4 #23 Top 10 Japanese Holidays: Setsubun/The Last Day of Winter

CONTENTS

- 2 Kanji
- 3 Kana
- 4 Romanization
- 5 English
- 6 Vocabulary
- 7 Sample Sentences
- 7 Grammar

23

KANJI

1. 節分
2. 子どもが「鬼は外、福は内」と言いながら、鬼のお面をかぶった父親に豆をぶついたり、豆を家の中にまいたりするのが、一昔前の「節分」のイメージ。一般的に「節分」とは毎年二月三日、立春の前日を指します。
3. さて、冒頭の文にいくつかの疑問を抱いた人もいるでしょう。
4. 一、なぜ「鬼」が出てくるのか。
5. 二、なぜ「豆」を投げるのか。
6. 三、現在の節分のイメージはどのように変化してきているか。
7. まず、一つ目の疑問。日本では古来から、季節の変わり目には鬼が現れると考えられています。節分とは、冬から春へ季節が変わる時。そのため、節分には鬼が出てくるというわけです。
8. では、なぜ「豆」を投げるのか。鬼とは「魔」とも呼ばれ、悪事を働くものです。この魔を滅する（消し去る）ものが「マメ（豆、魔滅）」。Beanの「豆」の音に「魔を滅する」という意味をかけているんですね。
9. この「マメ」を「鬼は外、福は内」という掛け声と共にまくのですが、これは、「鬼は家の外へ出て行け、福は家の内（中）に来い」という意味です。人々は炒った大豆を家の中や外にまき、まかれた豆を自分の年齢の数だけ食べることで、邪気を追い払い、その年の健康を祈るのです。

CONT'D OVER

10. 最後、三つ目の疑問ですが、実は現在では冒頭文のような光景は一般家庭では見られなくなってきているようです。代わりに神社仏閣で豆まきが行なわれることが多くなってきています。豆だけでなく菓子をまいたり、芸能人を呼んで「イベント」として盛り上がったりのすることもあります。時代の流れですね。また、鰯の頭を柵の枝に刺し、家の入り口に置く（魚の臭いで、邪気が家に入るのを防ぐという意味）という風習も地域によってはありましたが、これも近年では残念ながら見られなくなってきているようです。

KANA

1. せつぶん
2. こどもが「おにはそと、ふくはうち」といいながら、おにのおめんをかぶったちちおやにまめをぶついたり、まめをいえのなかにまいたりするのが、ひとむかしまえの「せつぶん」のイメージ。いっぱいてきに「せつぶん」とはまいとしにがつみっか、りっしゅんのぜんじつをさします。
3. さて、ぼうとうのぶんにいくつかのぎもんをいただいたひともいるでしょう。
4. いち、なぜ「おに」がでてくるのか。
5. に、なぜ「まめ」をなげるのか。
6. さん、げんざいのせつぶんのイメージはどのようにへんかしてきているか。
7. まず、ひとつめのぎもん。にっぽんではこらいから、きせつのかわりめにはおにがあらわれるとかがえられています。せつぶんとは、ふゆからはるへきせつがかわるとき。そのため、せつぶんにはおにがでてくるというわけです。
8. では、なぜ「まめ」をなげるのか。おにとは「ま」ともよばれ、あくじをはたらくものです。このまをみつする（けしさる）ものが「マメ」。Beanの「まめ」のおとに「まをみつする」といういみをかけているんですね。

9. この「マメ」を「おにはそと、ふくはうち」というかけごえとともにまくのですが、これは、「おにはいえのそとへでていけ、ふくはいえのうち（なか）にこい」といういみです。ひとびとはいったいずをいえのなかやそとにまき、まかれたまめをじぶんのねんれいのかずだけたべることで、じゃきをおいはらい、そのとしのけんこうをいのるのです。
10. さいご、みつつめのぎもんですが、じつはげんざいではぼうとうぶんのようなこうけいはいっぱんかていではみられなくなってきているようです。かわりにじんじゃぶっかくでまめまきがおこなわれることがおおくなってきています。まめだけでなくかしをまいたり、げいのうじんをよんで「イベント」としてもりあがったりすることもあります。じだいのながれですね。また、いわしのあたまをひいらぎのえだにさし、いえのいりぐちにおく（さかなのにおいで、じゃきがいえにはいるのをふせぐといういみ）というふうしゅうもちいきによってはありましたが、これもきんねんではざんねんながらみられなくなってきているようです。

ROMANIZATION

1. Setsubun
2. Kodomo ga "oni wa soto, fuku wa uchi" to iinagara, oni no omen o kabutta chichioya ni mame o butuketari, mame o ie no nakani maitari suru no ga, hitomukashi mae no "setsubun" no imēji. Ippanteki ni "setsubun" to wa maitoshi ni-gatsu mikka, risshun no zenjitsu o sashimasu.
3. Sate, bōtō no bun ni ikutsuka no gimon o idaita hito mo iru deshō.
4. Ichi, naze "oni" ga detekuru no ka.
5. Ni, naze "mame" o nageru no ka.
6. San, genzai no setsubun no imēji wa dono yō ni henka shite kite iru ka.

CONT'D OVER

7. Mazu, hitotsume no gimon. Nihon de wa korai kara, kisetu no kawarime ni wa oni ga arawareru to kangaerarete imasu. Setsubun to wa, fuyu kara haru e kisetu ga kawaru toki. Sono tame, setsubun ni wa oni ga dete kuru to iu wake desu.
8. De wa, naze "mame" o nageru no ka. Oni to wa "ma" tomo yobare, akuji o hataraku mono desu. Kono ma o messuru (keshisaru) mono ga "mame". Bean no "mame" no oto ni "ma o messuru" to iu imi o kakete iru n desu ne.
9. Kono "mame" o "oni wa soto, fuku wa uchi" to iu kakegoe to tomo ni maku no desu ga, kore wa, "oni wa ie no soto e dete ike, fuku wa ie no uchi (naka) ni koi" to iu imi desu. Hitobito wa itta daizu o ie no naka ya soto ni maki, makareta mame o jibun no nenrei no kazu dake taberu koto de, jaki o oiharai, sono toshi no kenkō o inoru no desu.
10. Saigo, mittsume no gimon desu ga, jitsu wa genzai de wa bōtōbun no yō na kōkei wa ippan katei de wa mirare naku natte kite iru yō desu. Kawari ni jinja bukkaku de mamemaki ga okonawareru koto ga ōku natte kite imasu. Mame dake de naku kashi o maitari, geinōjin o yonde "ibento" to shite moriagattari suru koto mo arimasu. Jidai no nagare desu ne. Mata, iwashi no atama o hiiragi no eda ni sashi, ie no iriguchi ni oku (sakana no nioi de, jaki ga ie ni iru no o fusegu to iu imi) to iu fūshū mo chiiki ni yotte wa arimashita ga, kore mo kinnen de wa zannen nagara mirarenaku natte kite iru yō desu.

ENGLISH

1. Setsubun/The Last Day of Winter
2. Children throwing beans at their father, who is wearing a demon mask, while saying, "Demons out, good fortune in," and scattering beans around the house—this is the old image of "Setsubun" or "the last day of winter." As a rule, Setsubun falls on the third of February every year, which is the day before the first day of spring.
3. Now, there must be a few people with questions about that first sentence.
4. 1. Why are there demons?
5. 2. Why do you throw beans?

CONT'D OVER

6. 3. How is the image of modern-day "Setsubun" changing?
7. Firstly, question one. It's an ancient belief in Japan that demons appear at the change of the season. Setsubun is when winter turns to spring. That's why Setsubun has demons.
8. So why do we throw beans? "Demons" ("oni") are also called "evil spirits," "ma" (魔), or things that do wicked deeds. The thing that can "get rid of," "messuru" (滅する) these demons is "mame," which is "ma"(魔) and "me" (滅). The reading of the word "mame" (豆), meaning "bean," contains the meaning "get rid of demons," you see.
9. These beans are scattered with the cry "Demons out, good fortune in!". This means "Demons get outside the house; good fortune, come inside the house." People scatter dried soybeans inside and outside the house, then, by eating only the number of beans equivalent to your age, you ward off colds and make a prayer for good health for that year.
10. Finally the third question. It seems that the scene I described in the first sentence is becoming less and less common in the average household. Instead, it's becoming more common for bean-scattering to take place at shrines and temples. Sometimes not just beans but also sweets are scattered, or television personalities are invited and people enjoy themselves as if at an event. These are the signs of the changing times. There also used to be the custom in certain areas of sticking a branch of holly olive through the head of a sardine and placing it at the entrance of the home (the the smell of fish was supposed to prevent evil from coming into the house), but sadly in recent years it seems that this is also disappearing.

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
冒頭	ぼうとう	bōtō	introduction
魔	ま	ma	demon, evil spirit
滅する	めつする	messuru	to be destroyed, to perish, to get rid of
炒る	いる	iru	to roast

鰯	いわし	iwashi	sardine
柊	ひいらぎ	hiiragi	holly
邪気	じゃき	jaki	evil spirits, maliciousness
仏閣	ぶっかく	bukkaku	Buddhist temple
風習	ふうしゅう	fūshū	custom, practice

SAMPLE SENTENCES

<p>冒頭の言葉にひきつけられて、この本を買った。</p> <p><i>Bōtō no kotoba ni hikitsukerarete kono hon o katta.</i></p> <p>I bought this book because I was pulled in by the introduction.</p>	<p>あの山には、魔が住んでいると言われている。</p> <p><i>Ano yama ni wa ma ga sunde iru to iwarete iru.</i></p> <p>It is said that an evil spirit lives in that mountain.</p>
<p>細菌を滅した調理具を使ってください。</p> <p><i>Saikin o messhita chōrigu o tsukatte kudasai.</i></p> <p>Please use utensils that are rid of bacteria.</p>	<p>コーヒーの豆をを炒ってくださいか。</p> <p><i>Kōhī no mame o itte kuremasu ka.</i></p> <p>Could you roast the coffee beans?</p>
<p>鰯が嫌いです。</p> <p><i>Iwashi ga kirai desu.</i></p> <p>I don't like sardines.</p>	<p>昔は、公園に柊の木があった。</p> <p><i>Mukashi wa kōen ni hiiragi no ki ga atta.</i></p> <p>There used to be holly trees in the park.</p>
<p>お寺で、邪気を払ってもらおう。</p> <p><i>O-tera de jaki o haratte morau.</i></p> <p>I have evil spirits expelled at the temple.</p>	<p>私のおばあちゃんは京都の仏閣をお参りした。</p> <p><i>Watashi no o-bāchan wa Kyōto no bukkau o o-mairishita.</i></p> <p>My grandmother visited Buddhist temples in Kyoto.</p>
<p>昔からの風習を守らなくてはいけない。</p> <p><i>Mukashi kara no fūshū o mamoranakute wa ikenai.</i></p> <p>We have to observe the customs of the past.</p>	

GRAMMAR

Yuichi: オーディオブログ第4シーズン第23課 「節分」

Jessi: こんにちは ジェシーです

Yuichi: ゆういちです。このシリーズでは、ジェシーさんと一緒に「日本の行事・祝日」を紹介しています。

Jessi: 今回紹介する日本の行事は？

Yuichi: 節分です。Jessi: では、聞いてみてください。

Yuichi: さて、今回は節分でした。今回のブログでなにか面白いことはありましたか。

Jessi: そうですね、節分に豆を投げるのは知っていたんですけど、どうして豆なのかが分かりました。

Yuichi: 実は、僕もこのブログを読んで初めて知りました。

Jessi: 魔を滅する、つまり魔滅（マメ）だから、ビーンズのマメを食べるんですね。駄洒落ですよ。

Yuichi: ま、いわゆる駄洒落ということですね。僕は駄洒落が好きですから、おお、そうなのか！！と納得してしまいました。といっても、日本語には今回のマメみたいに「音は同じだけど、意味が違う」という言葉がたくさんありますよね。

Jessi: 例えば、学校の話をしていて、「シリツ」と言うと二つの意味がありますよね。

Yuichi: そうですね。private schoolのことを指すときには、私に立つということで「私立」なんですけども、もう一個の、cityの市に立つという市立もあります。

Jessi: それって区別できなくてちょっと不便ですよ。

Yuichi: はい。区別したいときには、「ワタクシリツ」といったりします。で、その後者の、cityの方なんですけれども、その時には「イチリツ」と言います。Jessi: へー、知らなかったです。面白いですね。

Yuichi: 「ワタクシリツ」、「イチリツ」というふうに区別しますね。

Jessi: あと、ブログの中で、少し変だなと思ったことがあるんですけど。

Yuichi: どのところですか？

Jessi: 「まかれた豆を自分の年齢の数だけ食べる」って言っていたと思うんですけど、まかれた豆を食べるのって、ちょっと汚くないですか？

Yuichi: はい、これは昔の話だと思います。たぶん今現在、まいた豆を食べるということはないと思いますけど。ですので、ちゃんと、まだ撒いてないマメを食べると思います。

Jessi: あー、そうなんですか。聞いて安心しました。

Yuichi: でも、日本の住宅は土足じゃないですからね。ちゃんと靴を脱いで入りますし、畳や廊下の方は毎日掃除するから、きれいだと思います。だから、当時とかは全然普通にまいた豆を食べていたんじゃないかなと思います。

Jessi: あー、なるほど。日本では家に入るとき、靴を脱ぐから、床がきれいなんですね～。

土足の床とかに落ちてるものじゃないなら、食べても大丈夫そうですね。

Yuichi: そうですね。ところで、ジェシーさんは節分にマメを食べたことがありますか？

Jessi: うーん、私、なかなかそういう機会がなくて、食べたことがないんです。

Yuichi: あ、そうですか。僕も最近では食べないんですけども、だいたい高校生くらいまでは食べてたかな～と思います。だから、18才位までということなので、ちゃんと毎回18粒まで食べてたんですけども、年を取るにつれて食べるの大変なんですよ！おばあちゃんとか、本当に年の数食べてるのかな？

Jessi: そうですね。80歳のおばあちゃんは、80つぶ食べないといけない・・・ということですよ。大変ですね。Yuichi: ですよ。なんかこうのどに詰まっちゃいそうな感じがしますよね。地域とかによっては、自分の年齢プラス1食べないといけないところもあるみたいです。ま、個人的にあの大豆っていうのはあまりおいしくないかなと思います。

Jessi: あ、本当ですか。

Yuichi: だからジェシーさんもあんまり食べなくていいかなーと思います。

で、それから、最近、豆まきは減ってきているとういようなことがブログで言われていたんですけども、逆に東京では節分にする、あることが流行りだしているんです。分かりますか？ Jessi: ある事がはやりだしてる？うーん。あ！「太巻き寿司」ですか！！？

Yuichi: お、その通りです！さすがジェシーさん。

Jessi: イエイ！

Yuichi: この太巻き寿司っていうのは正しい名前は「恵方巻き」っていうんです。

Jessi: えほうまき・・・。

Yuichi: 恵方巻きというのは、太巻き寿司で、その年の縁起がいいとされる方角を向いて食べるものなんです。しかもそのときに、一言もしゃべらず、目をつぶって願い事をしながら、全部食べきらないといけないんです。

Jessi: へ～。目をつぶって食べるんですか??しりませんでした。Yuichi: で、しかもしゃべってはいけないので。これは面白いですよ。

Jessi: 面白いですね。

Yuichi: で、この恵方巻を食べるという習慣は、関東ではなくて、もともと関西で行われていたそうなんです。でも、ここ十年位で、全国展開しているスーパーとかコンビニが広めて、関東でも定着しつつあるんですよ。

Jessi: へー。関東で恵方まきを食べるようになったのは、つい最近なんですね。

Yuichi: そうなんです。だから、僕が子どものときはもっぱら、豆を食べることしかできなかったんです。

Jessi: 節分の習慣が変わってきているみたいですね！

Yuichi: それじゃあ、今回のブログはここまで。

Jessi: さようなら。 Yuichi: また、次回。